

ジャガット インフォ

2022



アートブックで文化財の価値を後世に伝える 東洋美術印刷が『京都 六波羅蜜寺 空也上人写真集』を刊行

東洋美術印刷は『京都 六波羅蜜寺 空也上人写真集』を2022年3月1日に刊行した。写真家の小平尚典氏が六波羅蜜寺で撮影した空也上人立像を高精細印刷と独特の装丁加工で仕上げたアートブックである。歴史的な文化財を巡る写真家と印刷会社の思いとこだわり、出版から始まる新たな事業展開の可能性について考察する。

[取材協力]	山本 久喜氏	東洋美術印刷株式会社 代表取締役社長
	宇佐美 和彦氏	同 マーケティング部 プロデューサー
	高橋 哲也氏	同 生産本部 生産管理センター 業務グループ プリンティングディレクター
	小平 尚典氏	株式会社コヒラ・パーソンズ・プロジェクト CEO 写真家・メディアプロデューサー。新潮社『FOCUS』創刊に参画。1987年から2009年までアメリカ西海岸で主にポートレート写真家として活動。ビル・ゲイツやスティーブ・ジョブズらのポートレート全作品が2021年スタンフォード大学ライブラリーにセレクトされる。公益社団法人日本写真家協会会員。



きっかけは小平氏の写真展

東洋美術印刷は、2021年3月に東京・飯田橋の本社1階にアートギャラリー「ii-Crossing」を開設、オープニングイベントとして、小平尚典氏によるスティーブ・ジョブズの写真展「THE THINKERS STEVE JOBS」を開催した。

小平氏は同年9月に京都でもジョブズの写真展を開催したが、その際、六波羅蜜寺で重要文化財の空也上人立像（以下、空也像）を撮影する機会を得た。

空也上人（以下、空也）は平安時代中期の僧侶で、六波羅蜜寺の前身となる西光寺を開いた。「南無阿弥陀仏」を唱える念仏信仰の先駆者とされ、2022年は没後1050年に当たる。

空也像は、鎌倉時代前期（13世紀）に、運慶の四男である康勝が作った木造寄木造の像である。高さ約117cmと小像ながらも写実的な造形が見る者の心に迫る。開いた口から「南無阿弥陀仏」の名号を表す6体の小仏を吐き出した姿がよく知られている。

小平氏は、撮影した空也像の写真集を作りたいと思い立ち、先の展覧会でつながりができた東洋美術印刷に相談を持ちかけた。

山本社長によると、東洋美術印刷はマーケティング・ソリューションをはじめ多角的な事業を展開するなかで、近年は社名にふさわしく美術印刷に注力しているという。スクリーニング・高精細印刷・インキ・用紙などの研究を進め、作品集などの実績も重ねている。

例えば2021年には、国際交流基金が主催した海外巡回展「妖怪大行進：日本の異形のものたち」の展示作品複製や展示会パネル制作などとともに、展覧会パ



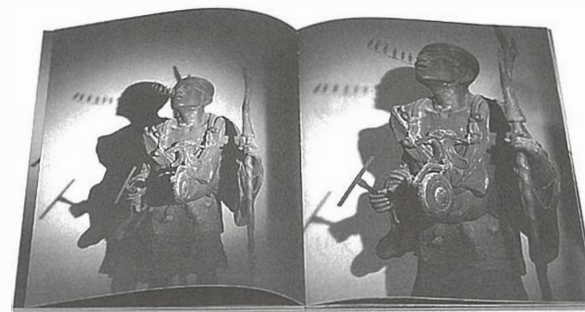
左から高橋 哲也氏、山本 久喜氏、小平 尚典氏、宇佐美 和彦氏

ンフレットのデザイン・制作を手掛けた。こうして培ってきた技術を「美巧彩」と名付け、ブランド化を目指している。小平氏の依頼は、こうした東洋美術印刷の戦略と合致していた。

写真家の思いと印刷会社のこだわり

空也が生きた時代は災害や疫病に見舞われ、多くの人々が亡くなっていった。空也は市中を回って人々の苦難に寄り添い、念仏による往生を説いたという。小平氏は空也像の撮影に当たり、当時と似通った状況にある現在を生きる人々に向けて、空也の精神を伝えることをコンセプトにした。

像のディテールに迫るため、カメラは約1億200万画素のFUJIFILM GFX100Sを使用した。そして市中を行脚する姿を再現するため、演色性の高い紫色LEDライトを用いて自然光に近いライティングを行った。像の本来の色味を損なわず、コントラストは仏像写真としては控えめにし、柔らかな雰囲気仕上げている。空也が背負った人生を感じさせるよう、像の影の出



さまざまなライティングで映し出される影が、空也の背負った人生を物語る

方にも工夫を凝らした。色温度5000Kと3000Kの2タイプのLEDライトを使い分け、前者でニュートラルな昼間の影、後者で赤みがかった夕暮れの影を作り出し、その組み合わせで物語性を感じる表現となった。

東洋美術印刷は、こうした撮影意図を理解した上で写真の魅力を最大限に生かすことを念頭に、編集制作を行った。編集は宇佐美氏、プリンティングディレクションは高橋氏が担当している。

序文と解説は、小平氏と親交がある作家の片山恭一氏が執筆した。文学の視点から考察し、作品に物語性を付与する役割を果たしている。解説文は全て日本語と英語を併記し、海外展開もできる形となっている。また、空也像の写真のほかに、小平氏が京都で撮影した竹林や空などの写真も掲載し、彩りを添えている。

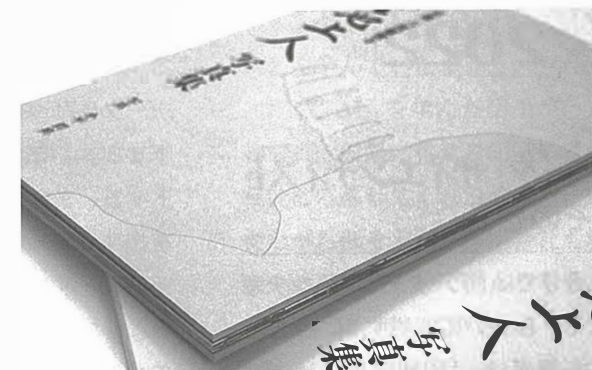
印刷では、高精細かつ重厚感のある表現を求め、フェアドット20ミクロン（350線相当）でスクリーニングを行った。本文用紙は、発色と柔らかな風合いを求め、ラフ調塗工紙のb7トラネクストを採用した。

製本加工では、経本をイメージした質素な外観と保存性を重視した。当初は和綴を検討したが、写真を見開きで配置するページもあることから、開きの良いコデックス装とした。

表紙は厚手の芯材にバフン紙を合わせ、文字に箔を施し、空也像の頭部と口から出された六体の小仏を空押しした。そして、題字の「空也上人」の文字は、六波羅蜜寺65世 山主の川崎純性氏に揮毫を依頼した。なお、川崎氏は巻末に「山主の語り」を寄稿しており、その中で小平氏の写真に対し「空也上人の声が聞こえてくるよう」だと述べている。

出版を通じて後世に文化をつなぐ

小平氏も東洋美術印刷も、本書を多く売ることができていない。六波羅蜜寺公認のアートブックという位置付けで、大切にしてくれる人の手に届け、後世に残る本になることを目指す。書店流通は想定しておらず、



コデックス装による造本。表紙には、空也像の頭部を空押しした

独自に販売する方針である。

折しも2022年3月1日から東京国立博物館で特別展「空也上人と六波羅蜜寺」が開催されていることから、会期中は展覧会特設ショップで本展図録やグッズとともに販売している。また六波羅蜜寺でも販売する。

ネット販売も開始した。使用しているサービスは「おもちゃえり.com」である。これは飲食店支援を目的とした、テイクアウトの受注・決済のオンラインサービスであるが、本書の場合、開発元のシンギュラリティ・ソサエティが通信販売目的のテストケースとして採用したものである。

小平氏は写真展などのイベントも企画し、少しずつ本書の魅力を広げていくという。東洋美術印刷は本書の出版を契機に、さまざまな作家との協業の可能性を探っていく。

印刷会社が自らのメディアを持つことは、企業の実力を世に示すことである。加えて本書の場合は、優れた文化財の価値を伝えるという社会的な意義もある。事業を通じたつながりが、次の事業に発展する可能性も秘めている。目先の利益追求ではない、企業価値を高めるための挑戦だといえる。

(研究調査部 石島 暁子)



本書では、JAPAN MADE事務局社が提供するブロックチェーン真贋判定システム「HyperJ.ai」を導入し、真作であることを証明している。奥付に印刷されたHyperJコード（QRコード）をスマートフォンの専用アプリで読み込むと、正規品であることの証明書、製品情報、作品解説の動画などが表示される。

『京都 六波羅蜜寺 空也上人写真集』
2022年3月1日 第1刷発行／定価：11,000円（送料・税込）
A4判／本文48頁／コデックス装／ブックケース収納
発行・印刷：東洋美術印刷株式会社／撮影：小平尚典
制作企画：株式会社まか／協力：六波羅蜜寺